

田中康夫

今月の憂いゴト

スノーデンの盗聴事件から、
つながるシェアハウス、
日本のアジア外交から、
参議院選挙の結果まで！

大阪・中之島にある「Sato」のショップ、
フロアに置かれたソファに腰掛け、
コーヒーを飲みながら対談を始めた田中・浅田両氏。
セレクトされて並ぶ店内の逸品と同じく、
さまざまな話題が二人によって吟味されていく。

photographs by Hiroshi Takaka text by Kentaro Matsui

浅田彰

憂国呆談

season 2 VOLUME 38

スノーデンの盗聴告発事件、 結末はどう迎える？

浅田 アメリカがネット上で大々的に情報傍受をやっているって内部告発したスノーデン事件の余波が収まらないね。実際、バラク・オバマ大統領は、イラクやアフガニスタンからの米軍撤退を進めるためにも、無人機による攻撃と並んでサイバー戦争を推進してきた。中国のサイバー攻撃を非難してたら、アメリカもやってくるって内部告発されたわけで、面目丸つぶれ。

容疑者のエドワード・スノーデンは、日本では元CIA（中央情報局）職員って報道されてるけど、実際は下請け会社の社員なんだよ。でも「インフラストラクチャー・アナリスト」っていう職分を利用して、国家的な機密にアクセスできた。そのこと自体も問題だけど。

田中 実は欧米では彼のような「職業」の若者は珍しくない。ハッカーとして逮捕した学生やフリーターに、罪を認めなければ禁固60年だぞ、と宣告する一方で、君の才能を国家のために提供するなら、お咎めなしで雇用するよ、高い給与も保証するよ、さらに技術を磨いてくれたまえ、と司法取引する。でも、守秘義務を課せられる国家公務員として雇用せず、アウトソースしていたとは。非正規雇用形態が2000万人を超えて全体の38%に達している日本でも今後、官民を問わずに起こり得る話だ。

浅田 トム・ハンクスの演ずる男が、突然のクーデタで祖国が消滅したためにパスポートが無効になって、ニューヨークのケネディ空港に足止めを食らう『ターミナル』って映画があったけど、スノーデンも同じようにモスクワのシレメチエボ国際空港

の乗り継ぎエリアで足止め状態になってるらしい。

田中 在英エクアドル大使館に「長期滞在」中のジュリアン・アサンジュのウィキリークスのスタッフが同行していて、スノーデンが出した声明文も米語でなく英語的言い回しだったから、ロシアも警戒心を募らせて、空港に「長期滞在」する羽目に陥った。仮にモスクワへ向かわず香港に滞在し続けても、これはこれでサイバー攻撃問題を抱える中国とアメリカの狭間で膠着状態に陥っていただろうけど。

浅田 専用機にスノーデンを同乗させてるって偽情報の流れ、ヨーロッパ各国に領空通過を拒否されたボリアのモラレス大統領をはじめ、南米のいくつかの国がスノーデンの亡命申請を受け入れるって表明してるけど……。

田中 その専用機はウィーンに給油着陸した途端に機内を調べられたんですよ。オーストリア政府の領有権も統治権も機内には及ばないのね（苦笑）。

浅田 そう、仮にも一国の大統領の専用機なんだから。

田中 スノーデンがどれだけの情報を持っているかはわからないけど、すでに残りの情報も暗号化していて、自分が捕まったらそれをアサンジュたちが全部一斉に出すとも言っているようだけど。



浅田 グーグルの会長のエリック・シュミットが、米國務省のライス元長官やクリントン前長官の顧問を務めたジャレド・コーエンをグーグル・アイディアズのディレクターに招き、二人で『The New Digital Age（新デジタル時代）』って本を出したけど、クリントン元米大統領やブレア元英首相なんかを推薦人に名を連ねてる。その書評をアサンジュが「ニューヨーク・タイムズ」に書いててさ。

グーグルの社是は「Don't be evil（悪をなすな）」なんだけど、アサンジュの書評のタイトルは「『悪をなすな』の凡庸さ」。これは、小役人の熱心さでホロコーストを実行したアイヒマンについてハンナ・アーレントの言った「悪の凡庸さ」のパロディなんだよね。カリフォルニアのニュー・エイジ文化に近いところから出発して、「悪をなすな」なんて新興宗教みたいなことを言ってた連中が、ある意味でその「善意」ゆえに今や政府と一体化してジョージ・オーウェルの『1984』のグローバル版みたいな監視社会を築こうとしてる、と。

田中 妙に政治好きな日本のIT関連の起業家も他山の石とすべき逸話だね（苦笑）。東西の冷戦後も映画『007』シリーズが成り立っているように、日本以外の「先進国」は諜報活動を続行どころか強化している。でも、さすがに今回の国家安全保障局（N

SA）の所業は「米軍からの攻撃」と題してドイツの『シュピーゲル』誌やイギリスの『ガーディアン』紙も批判的に報じた。EU諸国や日本、韓国、インド、メキシコといった自由主義圏の40近い「同盟国」の駐米大使館や代表部の部屋や通信機器に装置を仕込んで盗聴するだけでなく、ネットワークに侵入して内部文書や電子メールも入手していたんだからね。

「冷戦中の、敵国のやり口を思い出させる」断じて受け入れられない」と独仏の法相や外相が述べ、欧州委員会委員長のジョゼ・バロゾもEUとアメリカの作業部会を設置して調査する、EUとアメリカのFTA交渉は延期だと発言した。もちろん国交断絶などする訳もないけど、こうした「はったり」も外交なんだよ。なのに、日本はこういう発言すらできない。

浅田 たまたまオバマ大統領がベルリンで演説する直前にこの問題が明るみに出た。ドイツは旧東独時代のシュタージ（秘密警察）の盗聴の記憶があるからとくに敏感だし、田中さんの言うとおりに、ヨーロッパ全体がそうだよ。むしろ各国の情報機関が盗聴をやっていることは周知の事実。しかし、建前であっても、異議は唱えるわけだ。日本大使館でさえ盗聴されてたんだから、日本も一応は怒ってみせるべきだよ。そもそも日本はサイバーセキュリティに疎すぎるしね。

田中 「情報共有に努めている」と普義偉官房長官が会見で述べると、それ以上はメディアも何も聞かない体たらく（苦笑）。敵を知らずんば大人の喧嘩はできないのだから、中国・南北朝鮮、何するものぞ、と握りこぶしを振り上げる面々も少し深刻に考えたほうが良いね。

若者に人気のシェアハウス、 経済的理由もある？

浅田 今月は「人とつながる家」特集ってことだけど、社会的な意義のある家としては坂茂の作品が面白いね。阪神・淡路大震災をはじめ、世界各地で災害があるたびに、太い紙管を柱に使った仮設住宅や教会を建ててきた。けっこう住みやすくできてるんで、発展途上国だと住民がなかなか出て行かないのが問題になるくらい。東日本大震災後も、宮城県・女川町に海上輸送用のコンテナを積んで3階建ての仮設住宅をつくらせてみた。バザールや集会所も併設される。

田中 坂は常に社会の中で実際に役立つ作品をつくっているよね。生活の中にある建物。磯崎新も「芸術家肌の建築家はたくさんいるが、アクティビスト・アーキテクト（社会活動家的な建築家）」と呼べるのは、彼ぐらい」と評していた。一方、伊東豊雄がプリツカー賞を取ったけど、彼の作品は村上春樹的というか、社会から離れた純文学的印象だなあ。

浅田 プリツカー賞の前、去年のヴェネチア建築ビエンナーレの日本館に、被災者が集う「みんなの家」つてのを出して、金獅子賞を取った、これはまさに「いやし」と「さずな」のイメージでしかない。自然木の柱に支えられた家なんだけど、つくるのに手間のかかる趣味的な建築だし、そこから見渡せるのはいまだにほとんど復興の進まない空き地でしかないからね。坂茂の手法でも何でもいから、そこにどんなん実際に役に立つ家を建てていくことこそ必要なの。

田中 妹島和世は、伊東のところに行った

だっけ？

浅田 そう。菊竹清訓から、伊東、そして妹島と続く系譜だね。妹島と西沢立衛のSANAANAもすでにプリツカー賞を取ってる。ただ、菊竹がとことんごついものをつくるように、妹島はとことん軽くて透明なものをつくるのか、単純な論理で押し切る傾向が強いんじゃないかな。ただ、妹島は、初期の「岐阜県営北方住宅」でも、核家族の崩壊を踏まえて、公営住宅でも外へ出るドアを複数にするとか、それなりに面白い試みをやっている。

田中 家族の形態すら崩れてしまい、ダイニングルームというコヒーシヨップで会話もなく時間帯も別々に食事を摂るだけで、後は自分の部屋に籠もってしまう。ホテル家族の時代を象徴している。

浅田 最近、流行ってるシェアハウスに近いのかもしれない。確かに、若い男女が数人で一緒に暮らすつてのは、低賃金の草食



田中康夫

たなか・やすお ●1956年東京都生まれ。
一橋大学法学部卒業。大学在学中に『なんとなく、クリスタル』で文藝賞受賞。
長野県知事、参議院議員、衆議院議員を歴任。

世代にとっては楽なのかもしれないね。ただ、若い頃はそれでよくても、子どもをくつて育ててつてことになるの難しいんじゃないか。

田中 シェアハウスって、いつ頃から出てきたの？ 若年層が経済的に貧しいという背景もあるのかな。

浅田 うん、それが前提だけど、そこから、経済的に豊かじゃなくても気の合う仲間同士で楽しく暮らせばいいじゃないか、物質的な豊かさより心の豊かさのほうが大事じゃないかっていう価値の転換が起こった。ただ、若い世代の一次的なコミュニティを超えて、子育てや老人介護まで含めた通世代的なコミュニティまで広げようと思つたら、やっぱりそれなりに安定した所得を保証しないと難しいんじゃないかな。それこそ、ますます少子化が進んじやうと思うよ。

田中 と同時に、実は「地方」ではなく東京に代表される「都会」での「限界集落」

化も深刻な課題。だからこそ、マイスターである高齢者の知恵や技量を生かせる社会構造にしないと。さらに介護士や看護師も含めた現場従事者に移民を受け入れるのかどうか、政治が指針を示すべきなのに、これも問題先送りされている。

浅田 少子高齢化問題がもつと激烈な形をとるのが中国だね。一人っ子政策の下で生まれた世代が、巨大な高齢者人口を支えなきゃいけなくなる。ちなみに、金融でも、共産党幹部の意向次第で経済合理性を超えた巨額の融資が行われてきたから、いわゆる「シャドー・バンキング」を含めた不良債権が、日本どこの騒ぎじゃない大問題になるはずだよ。

田中 日本にとつても米国にとつても対岸の火事では済まない。日米同盟の重要性を声高に語る面々が何ゆえ、今こそ日米中が連携して対処しようと言わないのか、謎だよ。前々から述べているけど、工業生産額と輸出総額が世界一となった中国を米国が見放したり、敵に回せるはずもない。そこを理解しているからこそ韓国は自らを一段低い場所に置いてでも米中韓の協調体制を作ろうとしているのにな。

参議院選挙後の日本、 政治はよくなるの？

浅田 先月21日に参議院選挙が行われたけど、予想どおり自民党が大勝し、公明党と合わせて与党が過半数を獲得、衆参両院のねじれが解消された。6年前の参院選で大敗し、ドタバタの中で退陣した安倍晋三首相が、雪辱を果たした形だね。

でも実際は、民主党への失望が自民党を政権に返り咲かせた去年の衆院選同様、与党が勝ったというより野党が負けたといっ



坂茂の手法でも、
何でもいから、
何でいいから、
そこにどんなん
実際に
役に立つ家を
建てていくことこそ
必要なのにな。(浅田)

たほうがいい。共産党が善戦したものの、それも含め民主党以外の野党はドングリの背比べだしね。アベノミクスってのも、実際は超金融緩和で一時的に株価が上がっただけ、どうやら中身の無いバクチらしいってことはだんだんバレてきているんだけど、まだ景気がよくなるかのような期待が残っている時期に選挙があったのは安倍政権にとって幸運だった。

ともかく、これであと3年は国政選挙がない可能性が高いんで、安倍政権が憲法改正をはじめとするタカ派政策をどんどん出してくるとしたら、危険な状況だね。

田中 05年の民営化、09年の政権交代、昨年の政権奪還に続いて今回の争点ならぬキヤッチフレーズは、ねじれ解消だった。でも、ねじれがあるから物事が決まらない、

と言いつくするのは努力不足を棚に上げた話で、ねじれ解消を掲げるなら参議院不要も打ち出すべきでしょ。1947年の第1回参院選で最大勢力は108名の無所属議員。彼らの結成した院内会派が緑風会だった。

政党という組織の論理よりも議員という個人の信念を反映させるから、かつては良識の府と呼ばれたんだね。とはいえ今後、与党内で始まる内なる闘いは、公務・政務の人事ポスト獲得だけじゃない。参院選前は封印していた消費税、原発再稼働、TPPをはじめとする問題を巡って、野党が弱体化を続ける中、巨大化した与党の中で次期改選まで3年間、6年間の身分保障を受けた面々のマグマが噴き出してくる。その意味では、「不沈空母」発言の中曽根康弘が、

自分のことを小馬鹿にしていた「護憲派」の後藤田正晴を官房長官に、同じく「おんぼろ御典」と揶揄していた金丸信を自民党総務会長・幹事長・副総裁に重用した知恵

参議院は政党と組織の論理より議員という個人も反映させるから、良識の府と呼ばれたんだね。(田中)



こそ、長期政権を目指す上で参考とすべきかもしれない。共産党は、東京都議選でも自分たちのテータが支持されたと思ってるから悩ましいなあ。企業が国境を越えて跳梁跋扈する今の行き過ぎた資本主義を修正 する手段として、自分たちの存在を活用しようと今回は一票を有権者が投じてくれたのだ、と認識しないとね。

浅田 たしかに、原発の危険性にせよ、震災前から共産党が一貫してもっとも科学的に指摘してきたのは確か。ただ、「科学的社会主義」は絶対に正しいという独善的な政治姿勢では、筋の通った野党ってポジジョン以上は望めないでしょう。

田中 三十年戦争終結の1648年に相互の領土を尊重し、内政への干渉を控えること縮結されたウェストファリア条約で生まれたネーションステイト(国民国家)という概念こそ、国民と国家を守る「保守」が拠って立つ場所でしょ、本来は。

浅田 彰

あさだ・あきら●1957年兵庫県生まれ。京都大学大学院経済学研究科博士課程中退。京都造形芸術大学教授。83年に出版されたデビュー作『構造と力—記号論を超えて』はベストセラーに。

ところが、冷戦が終結し、ソ連の脅威が消滅して、資本が自由に国境を越える金融資本主義の時代が到来した。その結果、事業を展開する国に税金を支払わぬ、アップルやアマゾン、グーグルに象徴される多国籍ならぬ無国籍企業というモンスター企業が国家よりも上位に立って、消費者に国民を差配する状況が生まれ、日本以外の先進国の議会では議論になっている。

その欧米も新自由主義を否定はしないし、その速度と度合いを加速させる象徴的仕組みがTPP。新自由主義に警鐘を鳴らす立場へと転向した三菱UFJリサーチ&コンサルティング理事長の中谷巖も危惧しているけど、社会や家族の間関係や文化・伝統といった市場で「値段を付けられないもの」は価値ゼロだと見なすが、全分野で関税ゼロを目指すTPPの眼目。農業と金融で農業者を業シヤブ潰けにしている巨大な農業組織は「改革」されるべきだけど、

稲作文化や田園風景が消滅して遺伝子組み換え種子の化学会社に牛耳られる社会は誰も望んでいないでしょ。グローバル化は拒めない、止められない。でも、「日本を取り壊す」のでは売国奴になってしまふ。関税率うんぬんの条件闘争を超えて、これが「保守政権」のジレンマ。

浅田 基地の街・横須賀を地盤とする小泉純一郎は対米従属&新自由主義で突き進んだ。安倍もそれを引き継いで、TPP参加や規制緩和(アベノミクス第三の矢)を推進してるけど、彼自身の右翼思想はそれとは異質なんで、参院選の圧勝後、いよいよ本当に憲法改正をはじめとする「戦後レジームからの脱却」を始めるかもしれない。そうになると、しかし、中韓のみならず米との緊張も潜在的に高まる可能性があって、問題含みだね。

田中 「国民の手に憲法を取り戻していきたい」と開票日に述べた首相の言葉を借りれば、日本に限らず憲法とは「国家の手に取り戻す」べき存在ではないからね。以前は日本が集団的自衛権を得て、軍事行動を支える一員に成長するのを望んでいたアメリカも最近では、日本が軍事的フリーハンドを持つと自分たちのハンドリングを超えて、東アジアの波乱要因となりかねないと懸念している。ホワイトハウスだけでなく、共和党も民主党も。

政権や議会からも置いてきぼりとなってる一部のワシントンの「知日派」だけが唯し立てていて、それを日本の周回遅れなメディアがアメリカ全体の意見のようにミスリードしているんだね。いづれにせよ、「自立」というのは大変な日本の課題だよ。その前に雇用、福祉、年金、教育、環境をはじめとして問題山積だしね。

